

平成30年（2018年）10月30日

山陽小野田市 教育委員会

教育長 宮内 茂則 様

山陽小野田市教育委員会 社会教育委員

委員長 吉本 光良

提 言 書

1 課題名 厚陽公民館、きらら交流館、青年の家の今後の方向性について

2 提言の内容

(1) 社会教育施設老朽化に伴う長寿命化、建替えについて

ア 要旨（現状）

平成25年度、国の施設老朽化対策として、インフラ長寿命化基本計画が策定され、平成26年度には人口減少に伴う需要の変化や財政負担の平準化の必要性から、総務省から地方公共団体に対し、公共施設等総合管理計画の策定が要請された。こうした経緯を踏まえ、山陽小野田市でも建物を中心にインフラ施設等も含めた公共施設等の総合的な管理に取り組むための基本的な方針として「山陽小野田市公共施設等総合管理計画」が策定された。

社会教育施設は市民の生涯学習の場であり、コミュニティの場にもなっている。また、一部の施設は災害時の避難場所に指定されており、利用者の安全の確保、快適な施設環境の提供を図っていく必要がある。社会教育委員会議として山陽小野田市の社会教育施設の中で、老朽化等の問題のある施設の今後の方向性について協議した。

(2) 公民館について

ア 検討事項

- ・社会教育を進めていく上で、12 校区全てに公民館が必要なのかどうか検討する。
- ・利用者の安全確保のため、耐震化を検討する。

イ 提言

山陽小野田市全体でコミュニティ・スクールに取り組んでおり、その中心として公民館が位置づけられており、各校区に公民館は必要である。そのため、みんなが活用しやすいような施設に改修し、老朽化が顕著な施設については建替えるなど、公民館を潰すのではなく充実させる方向で考えていただきたい。

耐震化されていない施設については調査を行った上で優先順位を決め、耐震化を進めていってほしい。

特に、厚陽公民館の老朽化は著しい。厚陽公民館は校区の生涯学習や地域活動の拠点として、なくてはならない存在であるため、将来建替えを検討していただ

きたい。他の公民館については、今後順次検討する。

(3) きらら交流館について

ア 検討事項

- ・きらら交流館は、平成 28 年度 159,706 人の利用があったが、宿泊を伴う社会教育施設としての利用者は 2,400 人と少なく、おおむね温泉利用者が占めている。社会教育施設として管理運営していくべき施設であるかどうか検討する。

イ 提言

温泉施設の老朽化の問題について、施設を維持していくためには膨大な維持管理費が必要となる。また、来館者のほとんどが温泉施設の利用を目的としているという現在の利用状況を考えると、社会教育施設として維持する必要性はないと考えられる。第 3 セクター方式での運営など民間活力を含めた施設の管理運営方式の変更を検討していただきたい。

(4) 青年の家について

ア 検討事項

- ・平成 29 年 3 月に市が策定した「山陽小野田市公共施設等総合管理計画」では、老朽化した研修棟、天文館、休憩所等は解体し、体育館、グラウンド、テニスコートは、スポーツ施設として維持管理、運営を行い、今後、糸根公園を含めた一体的な

整備を検討していく旨が明記されている。利用者に快適な環境を提供できるように、今後の活用方針について検討する。

イ 提言

方向性として、当面は体育館、テニスコート、運動広場の維持管理に取り組み、継続的な使用を行うことが望ましいが、今後、建物の老朽化により安全面の確保が難しいことが予想される。花の海とのコラボレーションや、家族連れや地域住民が憩う公園として、また、隣接する糸根公園を含めた一体的な整備を行い、住民が集う多目的施設やスポーツ施設として活用する方法も含め検討していただきたい。

なお、管理棟2階に仮保存されている市の文化財の移転場所の確保が急務であることを申し添えます。